

反省記録

<石研究授業の講評・反省>

◎ 板書が不適切だった。

- ・ 板書とプリントの図が一致しておらず、生徒を混乱させてしまった。
- ・ 板書計画通りに板書することが出来ず、生徒につけ足してもらう場面があった。
- ・ 黒板を全て使いきらずに左側から書いてしまい、何度も消してしまった。

◎ 生徒との一体感がなかった。

生徒の方をあまり見ず、黒板とプリントばかり見てしまっていた。たとえ生徒の方に目をつけることがあっても、生徒一人一人を観察するというよりも、生徒集団に対して目が泳いでしまった。

◎ 淡々とした口調で抑揚がなかった。

- ・ そのため、本時で強調するポイントが生徒に伝わらなかった。
- ・ 単調な授業で、生徒を退屈させてしまった。

◎ 比喩 (= 分かりやすく言葉と言いかえる) を使えなかった。

「無差別的に食べる」 = ギャル曽根ちゃん、など。

◎ 寝ている生徒への対処を怠った。

ノートに板書をうつしている時に机間巡視をしたり、発問時に寝ている生徒を指名する、などの方法が考えられる。

- ・ 姿勢が悪く、だらっとしてしまっていた。
- ・ 語尾が小さくなってしまい、声が聞きとりづらかった。

(感想)

やはり、時間通りに決められた範囲を終わらせることに意識が集中してしまい、生徒の気持ちを考えられず、結果的に私が一人で(一方的に)授業を進めているような状態になってしまったことが、一番の反省事項である。また、抑揚のつけ方や発声については、今後自分の授業をビデオに撮影して、改善していきたい。比喩だけでなく、模型や実物を使うなどの工夫もして、生徒が主体的な学習を楽しめるような授業を展開できるように、精進したい。